



令和4年12月1日 (No.9)

小金井市立南小学校

TEL 042-383-1149

くじらぐも 042-385-6310



学校 HP

## 「人権週間」によせて

校長 檀原 延和

師走の候、2学期「実りの秋」のまとめの時期となりました。

先月の学習発表会では、どの学年も「みんながかがやける、みんなが主役、思い出に残る 南の学習発表会」のとおり、一人一人が主役となって活躍する素晴らしい発表会となりました。子供たちは、限られた時間の中でアイデアを出し合いながら準備を進めてきました。朝の時間や休み時間に自主的に大道具や背景画を作成する子供たちの姿も見られました。そして、練習過程や本番の姿から、普段の生活では見られない子供の隠れた良さや才能をたくさん見ることができたことは、本当に嬉しいことでした。保護者の皆様におかれましては、セリフや演技へのアドバイス、衣装や小道具の準備、当日に向けた体調管理、そして心の面でのサポートなど、たいへんお世話になりました。あらためて御礼申し上げます。学年で一つの舞台を作り上げた経験や劇のテーマである「思いやり」や「ありがとうの気持ち」「本当の宝物」「信じる心」などをいつまでも忘れないでほしいと思います。



さて、12月4日～10日は、第74回「人権週間」(\*下参照)です。人権というと、子供にとって少し難しい話のように感じるかもしれません。しかし、人権教育は、道徳教育と共に最も大切な教育内容であり、子供たちは、様々な場面で相手の立場にたって思いやりの気持ちをもって行動することの大切さについて学んでいます。学習発表会の劇のテーマにも、これに通じる内容が多く見られました。また、主な人権課題として、子供、女性、高齢者、障害者、外国人、LGBTなどがあります。学校では、様々な立場の人たちの人権を正しく理解するとともに、人権問題を自分事としてとらえ、誰もが生き生きと活躍できる社会をつくっていくことの大切さについても学んでいます。これは、正しい知識がないことによって生じる人権問題が世の中に多く見られるからです。例えば4年生で

は、耳の不自由な方をゲストティーチャーとして招き、障害のある方への理解を深めたり、パラリンピアンの方の天摩由貴選手(ゴールボール銅メダリスト)をお招きして講話を聞き、実際にゴールボールのゲーム体験をしたりするなど、正しい知識と体験活動を通して障害者への理解を深めました。また、たてわり活動では、6年生が低学年の実態に応じて遊びを考えたり、どの子も楽しめるようにルールを工夫したりするなど、異年齢集団による交流や活動を通して思いやりの心を育てています。

しかし、子供の思いやりの心や人権感覚は、学校の中だけ育まれるものではありません。保護者の皆様や地域の方々の協力や連携が不可欠です。「世界人権デー」にあたる10日(土)には「南小フェスティバル」が開催されます。子供たち・保護者・地域・学校が、関わり合いを深め、互いのよさを認め合いながら交流できる貴重な機会になることと期待しています。今後も、子供たちの人権意識の涵養のために、ご支援・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

\*「人権週間」とは1948年(昭和23年)12月10日、国際連合の総会において、世界における自由、正義及び平和の基礎である基本的人権を確保するため、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、世界人権宣言を採択し、1950年(昭和25年)に、世界人権宣言が採択された日である12月10日を「人権デー」と定め、全ての加盟国及び関係機関が、この日を祝賀する日として人権活動を推進するための諸行事を行うよう要請する決議を採択しました。これをうけて日本では、法務省と全国人権擁護委員連合会が、1949年(昭和24年)から、毎年「人権週間」を定めています。